

「博士課程教育リーディングプログラム」中間評価結果

機関名	京都大学	整理番号	K02
プログラム名称	デザイン学大学院連携プログラム		
プログラム責任者	北野 正雄	プログラム コーディネーター	石田 亨

◇博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価（公表用）

〔総括評価〕

計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

〔コメント〕

リーダーを養成する学位プログラムの確立については、体系的な講義に加え、問題発見・問題解決の実践プログラムが充実し教育効果を上げている。デザイン学を異分野理解の共通言語として、異なる視点や方法論を広く学べる仕組みが整備されつつあり、十分評価できる。

産学官民参画による修了者のグローバルリーダーとしての成長及び活躍の実現性については、本プログラムに積極的に参加している異分野の学生や社会人・企業人とのプロジェクトを通じた交流によって、将来のキャリアパスに対する学生たちの意識が変わるほどの大きなインパクトを与えており、評価できる。

グローバルに活躍するリーダーを養成する指導体制の整備については、担当教員の精力的な取組に加え、外国人や企業との交流が進められ、学生に対する組織的な指導体制が整備されている点は評価できる。今後は、複数アドバイザー制度が学生にとって十分に意義深い仕組みとなるよう一層の工夫が期待される。また、国際ネットワークの強化やグローバルな環境整備についても充実が望まれる。

優秀な学生の獲得については、様々な方法で優秀な学生を獲得する工夫がなされており、学生への経済的支援も充実してきている。女性や他大学出身者、社会人学生は十分に獲得できつつあるが、留学生を含めた優秀な学生の獲得に一層配慮がなされることを期待する。

世界に通用する確かな学位の質保証システムについては、異領域の教員チームによる評価を継続して行っているほか、学位審査をプログラム内学位審査委員と各研究科が協働して行うなど、質保証を行う取組がなされており評価できる。今後は、デザイン学として求める学位の質に関し、研究科間での議論を深め、分野横断的な学位の質保証システムを確立することが期待される。

事業の定着・発展については、分野を横断する多くの専任教員が本プログラムに積極的に関わっており、また、継続性を考慮したカリキュラムが充実していることから事業の定着が期待できる。今後、大学全体としての更なる組織的支援が望まれる。